平成22年 9 月25日（土） 上 毛 新 聞

チーム医療教育〝輸出〟

WHOと連携 途上国の向上支援

群馬大含む11大学

群馬大をはじめとする「チーム医療教育」に取り組む11大学は、世界保健機関（WHO）などと連携し、保健分野の人材不足に悩む発展途上国にチーム医療教育のシステムを〝輸出〟する試みに乗り出す。医療従事者が横断的に協力して総合力を高めるチーム医療を普及させ、途上国の保健・医療水準の向上を手助けする。学生や若手教員にとっても、海外で経験を積むことにより、国際的な視野や柔軟な発想を身に付ける機会になる。まず、来年1月にタイで開かれるWHOのシンポジウムで群馬大などのチーム医療教育を紹介する。

今回の事業は、群馬大が音頭を取って計画し、他大学とともに取り組む。大学の教育力向上を支援する文部科学省の事業「大学教育推進プログラム」に選定され、群馬大には3年間で約5千万円が助成される。

横断的に連携 総合力高める

チーム医療

医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士らの専門領域が高度化、専門分化する中で、保健・医療スタッフが役割を認識した上で横断的に連携し、総合的な医療を目指すのがチーム医療。保健所の職員や患者の家族ら保健・医療にかかわる広い範囲の人を含んだ医療を指すケースもある。

群馬大医学部保健学科は1999年、チームで医療を行うのに必要な資質を習得するための講座を、国内で他に先駆けて開講。2008年にはチーム医療教育に取り組む大学に呼び掛け、日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク（JIPWEN）を設立した。

現在、群馬大のほかに首都大学東京、札幌医科大、新潟医療福祉大、筑波大、埼玉県立大、東京慈恵会医科大、慶応大、千葉大、北里大、神戸大が加盟。今回の途上国支援の取り組みにも、この11大学が参加する。

具体的には、国際協力機構（JICA）を通じ、チーム医療教育の導入を求める途上国の大学に教員を派遣したり、日本に途上国の教員を招いたりして、人材育成に必要なノウハウの提供を試みる。

WHOの会合に若手教員や学生を派遣し、途上国の医療・保健水準向上のためにチーム医療教育をどう生かせるか、可能な取り組みを検討する。

国際的な会合に学生らが参加することは、保健医療スタッフとして求められる資質の養成に役立つと期待。国際理解やインターネットによる情報収集・分析能力、コミュニケーション・チームワーク力の向上なども目指す。

これを契機にチーム医療教育の教育効果を客観的に検証し、より充実したカリキュラムづくりも同時に進める。